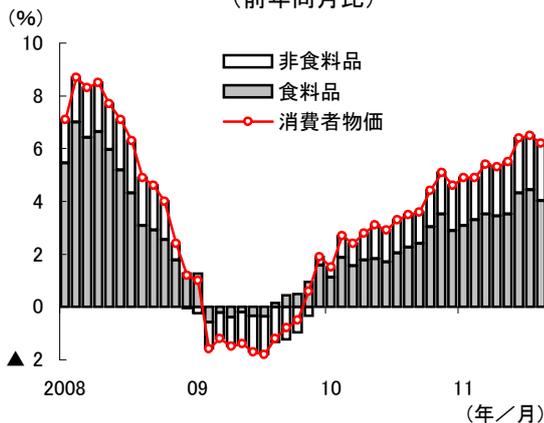


## 中国のインフレは緩和の方向

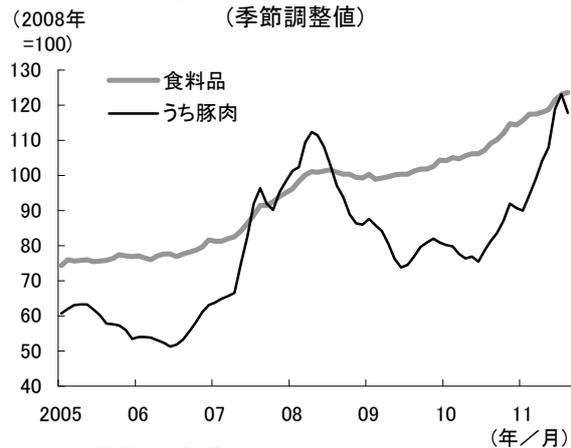
- (1) 8月の中国の消費者物価上昇率は前年同月比6.2%と高水準。内訳をみると、豚肉価格を中心とした食料品の寄与度が4.0%ポイントに達し、インフレの大半の要因に(図表1)。食料価格上昇の原因は、①世界的な一次産品価格の高騰、②国内での食料の供給不足、③金融当局による潤沢な資金供給、の3点。
- (2) ただし、足元ではインフレが緩和する兆し。金融引き締め政策の効果も一部あるものの、豚肉価格が供給増加を受けて下落に転じたことが主因(図表2)。中国では参入・撤退の容易な零細生産業者が多く供給量が大きく振れ、豚肉価格は需要よりも供給要因で決定される傾向(図表3)。8月の豚肉価格は前月比▲4.4%であり、これだけでCPIを0.12%ポイント押し下げた模様。
- (3) 今後、豚肉価格は供給拡大により下落に転じる見込み。穀物など他の食料品も供給拡大により、価格急騰に歯止めがかかる公算大。食料品価格が横ばいで推移すると的前提で試算すると、CPIは2011年7月をピークに急低下し、2012年半ばには3%を下回る見込み(図表4)。
- (4) インフレ沈静化は、実質所得を押し上げ。結果として、実質個人消費を押し上げ、中国景気の下支え要因となることが期待。

(図表1)中国消費者物価の寄与度分解  
(前年同月比)



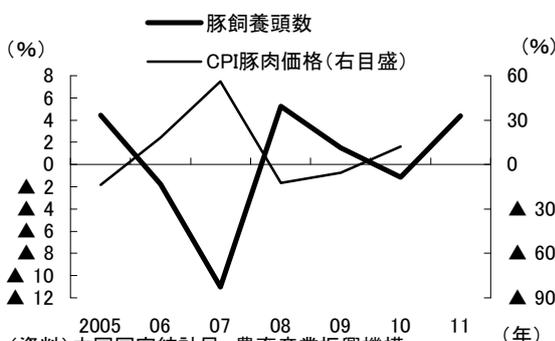
(資料)中国国家统计局をもとに日本総研作成

(図表2)消費者物価の推移  
(季節調整値)



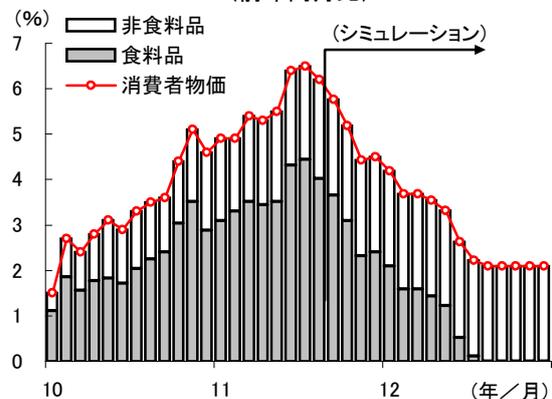
(資料)中国国家统计局をもとに日本総研作成

(図表3)豚飼養頭数とCPI豚肉価格の推移  
(前年比)



(資料)中国国家统计局、農畜産業振興機構  
(注1)2010年までの豚飼養頭数は年末値の前年比。2011年は5月の前年同月比(出所:農畜産業振興機構、原典:中国農業部農村経済研究センター)。  
(注2)CPI豚肉価格は各年12月の前年同月比。

(図表4)消費者物価のシミュレーション  
(前年同月比)



(資料)中国国家统计局をもとに日本総研作成  
(注)試算の前提は、食料品価格が2011年8月以降横ばいで推移。非食料品価格は前年比3.0%の上昇を維持。